

【バードライフ・インターナショナル】 「第26回 国際鳥類学会議」が 開催されました



8月18日から24日にかけて、立教大学において「第26回 国際鳥類学会議」が開催されました。国際鳥類学会議は、4年に一度、鳥類に関するあらゆる分野の研究者が世界各国より一堂に会し、最新の研究成果を発表し、互いに議論する場です。130年の歴史を持つ伝統ある国際会議で、今回は2010年にブラジルで開催され、日本での開催は初めてとなります。

会議では、多数のシンポジウムや、口頭発表、ポスター発表、各種委員会などが企画されており、バードライフ・インターナショナル東京からも、研究員や職員が発表や議論のため、参加しました。ポスター発表では、シンバ・チャン主任研究員が世界的な絶滅危惧種であるヒガシナアジサシの繁殖地の復元の成果について発表しました。

バードライフでは、渡り鳥の保全の活動を実施していますが、世界中から研究者が集まる本会議は、渡り鳥の最新

状況についての知見の交換や、国際的な保全活動の連携の推進などについて話し合うには、最適な場となっています。東アジア・オーストラリア地域の研究者も多く集まり、ガン・カモ類やシギ・チドリ類などの渡り鳥の保全についてのシンポジウムや集会が開かれ、今後の活動方針について活発な議論が行われました。

次回の国際鳥類学会議は、2018年にカナダで開催される予定です。



ヒガシナアジサシの繁殖地復元の成果について発表するシンバ・チャン主任研究員。

バードライフ・インターナショナル

イギリス ケンブリッジに本部を持つ国際環境NGO。
世界120か国のパートナー団体と約280万人のメンバーとともに、
鳥類を指標にして環境保全に取り組む。
高円宮妃久子殿下が名誉総裁を務める。